

日米フォーラム 12日開催 協力枠組み実現目指す



【東京支社】国際リニアコライダー（ILC）計画を推進する超党派のリニアコライダー国際研究所建設推進

議員連盟（会長・河村建夫衆院議員）は1日、国会内で幹事会を開き、11日から3日間の訪米日程を確認した。12日に日米先端科学技術フォーラムを開催。日米の政産学官で議論を深め、先端技術に關し大型国際プロジェクトの促進、定期会合など日米協力の枠組みの実現を目指す。

訪米団は、議連からはいずれも自民党衆院議員で幹事長の塩谷立氏（静岡8区）、副会長の鈴木俊一氏（岩手2区）、事務局次長の大塚拓氏（埼玉9区）を予定。

このほか、生川浩史文科省大臣官房審議官、菅原寛孝沖縄科学技術大学院大学特別教授、鈴木厚人県立大学長、山本均東北大教授、山下了東大特任教授、高橋宏明東経連会長、

谷村邦久県ILC推進協議会長ら政産学官の総勢30人規模で調整している。

11日に米の高官や議員らと面談し、夕方から日米先端科学技術フォーラムを開き、日米の国会議員、研究者、産業界関係者らが協議。12日は米ハドソン研究所で会合を開く見

通した。ILCは宇宙の起源解明を目指す世界最大の超大型直線加速器で、本県の北上山地（北上高地）が建設候補地。加速器施設建設費（労務費含む）だけでも1兆円を越す巨額コストを主要各国が協調し分担できるかどうかは課題となっている。